

第 72 回 虎屋文庫資料展のご案内

## お菓子も楽しい! 「虎屋・寅年・虎づくし」展

2009 年 11 月 1 日(日) ~ 30 日(月) 10:00 ~ 17:30

虎屋ギャラリー(虎屋ビル2 階) 入場無料/会期中無休

地下鉄赤坂見附駅 A 出口より徒歩約 7 分

異国の猛獣、虎は、日本人の想像力をかきたてる動物として親しまれてきました。今回は 2010 年の寅年にちなみ、大漁や無病息災を願って踊る勇壮な虎舞、表情豊かな郷土玩具など、文化や生活に息づく「虎」をご紹介します。さまざまな虎の菓子もあわせてお楽しみください。

虎は日本には生息していなかったため、多くの日本人が本物の虎を目にするようになるのは、幕末以降のことです。

ところがそのずっと以前から、美術品や物語、行事に見世物、商店の屋号にまで、虎は登場しています。その人気の秘密は...?

### 怖い? かわいい? 暴れる巨大な虎

いちきの七夕踊(鹿児島県いちき串木野市)では、大きな虎の「<sup>つくもん</sup>作い物」が炎天下の川岸や畦道で大暴れ。左右に首を振り、口を開け、舌を揺らして「<sup>とらと</sup>虎捕り」(退治役)に迫る姿には、不思議と愛嬌も感じられます。

<sup>はちのへさんしゃたいさい</sup>八戸三社大祭(八戸市)の虎舞や浦賀(横須賀市)の虎踊りなどの行事や民俗芸能を、動画とともにご紹介します。

### 達磨を乗せた虎張子

文政 3 年(1820)、名古屋のあるお寺に張子の虎を使った不思議な見世物が出現しました。虎の背中には達磨、隣にはひょっとこのお面を付けた人形が...

これは当時一世を風靡した籠細工(竹で編んだ作り物)見世物のパロディです。今回はこの虎張子を用いた作り物を再現します。当時の見世物人気の一端に触れていただければ幸いです。

### 各地の虎玩具が集合

茶目っ気たっぷり首を振る虎張子を中心に、各地に伝わる郷土玩具を集めました。見開いた目、大きな耳にピンと張った髭と、それぞれ特徴ある姿をご覧ください。

### 三都の「虎屋」が大繁盛

江戸時代の三都にはそれぞれ「虎屋」を名乗る菓子屋がありました。大坂高麗橋の虎屋伊織<sup>いおり</sup>は観光名所になるほどの人気を誇った饅頭の名店。江戸には幕府の菓子御用を勤めた虎屋織江<sup>おりえ</sup>のほか、芝居小屋への出入りで江戸っ子に親しまれた虎屋高林<sup>こうりん</sup>がありました。そして京都の虎屋（現在の株式会社虎屋）は、江戸時代を通して御所御用を続けた菓子屋です。

当時の各「虎屋」のお菓子を再現するほか、繁盛ぶりを物語る錦絵や菓子絵図帳、当社の屋号の由来に関する古文書や看板、井籠を展示します。

### 菓子になった虎

昭和 61 年(1986 年)の寅年にちなんで考案された大きな虎の干菓子(同封写真)、虎の小麦粉煎餅、社員から図案を募集した干支菓子など、虎屋ではいろいろな虎の菓子が作られてきました。また、江戸時代の史料から復元した虎意匠の菓子、フランスやスウェーデン、オランダほかに伝わる、虎の名を冠した菓子やパンもお楽しみください。

このほか、虎にちなんだ美術品、現在絶滅の危機に瀕している虎の保護活動<sup>\*</sup>なども、ご紹介いたします。

\* 虎屋では、1994 年より、WWF ジャパン(世界自然保護基金ジャパン)の「トラ保護活動」に協力し、とらやオリジナルグッズの売り上げの一部を寄付しております。

### 主な展示品

虎屋に残る井籠・看板、古文書。虎にまつわる菓子約 20 点、江戸時代の虎屋の菓子復元約 10 点。富岡鉄斎筆「狂虎の図」ほか虎にちなんだ美術品や各地の郷土玩具。

展示解説 毎週月曜日 10:30～。参加自由。

### お問い合わせ先

〒107-8401 東京都港区赤坂 4-9-22 株式会社 虎 屋 虎 屋 文 庫

Tel 03-3408-2402 Fax 03-3408-4561

e-mail bunko@toraya-group.co.jp

<http://www.toraya-group.co.jp/>

同封の写真は、虎屋の掛紙(富岡鉄斎筆)の図案をうつした菓子押物製「扇面竹虎形」です。

